

そよげ風

山口市立小郡小学校学校だより
平成24年度No.4 (通算33号)
平成24年6月27日

未来を生きる子どもたちのために
校長 藤田辰夫

1学期も残り3週間ばかりとなってきました。子どもたちも今の学年に慣れ、やや規律にゆるみがでてきています。引き続き、あいさつ・制服の着こなし・着帽・廊下歩行など、基本的な生活習慣の徹底を図りたいと思います。さて、全国連合小学校長会の冊子に下記のような記事が載っていました。

一 保護者から次のような匿名の電話を受けた。「我が子が市内硬筆展のクラス代表に選ばれ、張り切って放課後の練習を続けていた。ところが、学年代表には選ばれず、練習は終了になった。あんなに頑張ったのに…。その後、子どもは、書写の授業にすっかりやる気をなくし、道具も持っていない。なんとか展覧会に参加させてやりたい。方法はないものか。」
「残念ながら、それは無理です。」と答えたものの、我が子を何とかしてやりたいのだという一生懸命な思いは、強く伝わってくる。話を伺いながら、「世の中に、努力しても成らないことはたくさんある。親の本当の愛情は、我が子が将来、挫折せずに生きていける力を付けることではないだろうか。今、挫折しかかっている我が子を救えるのは、我が子の努力を心から認めている親のあなたしかいない。それこそが、子どもが本当に求めていることに応えることになるのでは……。」という意味のことを必死になって伝えた。幸い、理解してくださったようで、その後の再度の電話で「子どもは元気を取り戻し、また頑張り始めた。」ということを知った。
(以下略) 《小学校時報5月号より一部抜粋》

子どもは、いろいろな場面で悔しさや辛さを感じることもあると思います。スポーツで勝利した選手たちは、「がんばれば夢は叶えられる」とか「努力は報われる」など話します。これは勝者の言葉であり、同じ努力をしても敗者は報われません。しかし、努力の過程をきちんと評価して、現実をしっかり受け止め、励まし、次につなげてやることは親や教師の役目ではないでしょうか。ところで、書家で詩人の相田みつをさんが、小学校のPTA会長をしていたということはあまり知られていませんが、ずいぶんと熱心にやられていたということです。その頃のノートに、次のことばが残されていたそうです。

- 一 わたしたちは、未来の社会を予測できない。
- 一 子どもは、その未来の社会を生きるものである。
- 一 そのとき親の手は届かない。

「だから、子どもをどんな社会にも正しく適応し、たくましく生きられるように育てておくことが、親の大事な務めなのである。そして、学校教育もPTAもその延長線上にあるべきである。」と書かれてあったそうです。また、国語学者である大村はまさんは、

「子どもを本当にかわいいと言うんでしたら、子どもが一人で生きていくときに、泣くことのないようにしてやりたいと思います。一番大事なとき、泣かずにすむようにしてやりたいと思います。」

両者のことばは、子どもが未来をたくましく生きていけるように、失敗や困難に出合った時にこそ「優しく・厳しく」しっかり支援してやろうということではないでしょうか。

「子どもは未来を生きるもの」・・・改めて心して学校経営に取り組みたいと思います。

6月を振り返って

— 学校生活を写真とともに振り返ります —

避難訓練（不審者対応） 6月1日（金）



子どもたちの安全な生活を脅かす不審者による犯

「さあ、こちらに
並んで」。学級担任
は長い棒を持って
体育館に集合。

罪は後を絶ち
ません。子ども
たちの安全な
生活を保障す
ることは学校
の最大の責務であり
ます。



不審者から素早
く離れる、大声を
出して逃げるこ
とが大切だよ。

玄関前に不審者が侵
入、学校教職員による対
応、110番通報、児童
は体育館へ避難、ビデオ
視聴、防犯教室という順
で訓練を実施しました。

「知らない人には絶対に付いていかない」ということをご家庭でもご指導をお願いいたします。

また、子どもを狙った不審電話も後を絶ちません。絶対に対応しないことが肝要です。

救急救命法講習会 6月6日（水）



プール開きを前に、教職員対象の救急救命法講習会を開催しました。「迅速かつ正確な心肺蘇生法を講ずることによって、心肺機能を復活させる技術を高める」ことを目的として実施しました。

前半は、講師からの説明がありました。実際に心肺蘇生法によって高校生の命を救ったお話は、非常に説得力と臨場感があり、そして、心肺蘇生法の必要性と重要性を再認識いたしました。

学校で心肺蘇生法を行うことがないことが一番の事ですが、もし、使う必要があるときは、躊躇（ちゅうちょ）することなく実施しなければなりません。子どもたちの命を預かっている学校教職員は、そんな思いをもって、日々の教育活動に取り組んでいます。

グループでの実技練習では、正確な心肺蘇生法を習得できるよう真剣な講習が行われました。

雨に似合う花 紫陽花（アジサイ）（写真は、体育館横のアジサイ）



花言葉は、「移り気」「高慢」「辛抱強い愛情」「元気な女性」「あなたは美しいが冷淡だ」「無情」等。

日本には、10数種が自生しています。原種は青紫色とされていて、花びらに見えるのは萼（がく）。本当の花は、中心部分の丸い粒のような所です。もともとは、「あずさい」と呼ばれていたとされています。「あず」は「集まる」、「さ」は真、「い」は「藍（藍色）」の省略形、つまり「真の藍色が集まっている花」という意味合いです。土壌のPH（酸性・アルカリ性）によって現れる花色が異なることでおなじみです。酸性が強いと青みがかかり、アルカリ性が強いと赤みがかかります。青、赤、ピンク、紫、白色と背景の緑色がマッチし何とも言えない落ち着いた、そして、上品な雰囲気醸し出してくれる花です。

美しいものを美しいと感じる心を今後とも子どもたちに育てていきたいと思ひます。

山口県青少年劇場6月19日(火)

—ヴァイオリン(鍵富弦太郎さん)と
チェロ(湯原拓哉さん)の演奏会—



「青少年劇場」は全国2,000万人の青少年に優れた芸術を直接に鑑賞してもらい、美しい人間形成の一助としたいと願う文化活動の一つです。これまでの開催回数は38,000回を超え、鑑賞者数は、のべ2,000万人を突破しています。

当日は、クラシックの名曲を演奏していただきました。テレビや映画のBGMでも使われているオシャレでカッコいい素敵な名曲を集め、弦楽器の代表格ヴァイオリンとチェロの美しく情熱的なアンサンブルでした。また、「ビリーブ」と「校歌」を本校

児童がいっしょに歌い、子どもたちにとっては、とても良い経験ができました。

演奏者は、「コンサートをきっかけに、クラシックを身近に感じて好きになってくれれば」と話しておられます。

3年生校外学習 6月22日(金)

3年生は、校外学習として、種田山頭火の庵である其中庵を訪問しました。



山頭火が10歳のとき、母が井戸に落ちて死亡。貧しく食べるものもないような生活。犬や猫をかわいがって生活していました。山頭火は、母の位牌を背負い、全国を旅しながら、俳句を作りました。

しかし、年を取り、旅するのが辛くなってきたので、どこかに住む場所を決めて、そこに長く住みたいと思うようになりました。いろいろな場所を探しましたが小郡に住む俳句の友達が家を探し、修理してくれました。そして、家を其中庵と名付けました。山頭火は大きな駅があり、魚が豊か、そして、榎野川が近くにある

小郡がたいそう気に入って7年もの間、ここ其中庵で生活しました。山頭火の作った俳句は、自由律俳句と言われ、五七五にとらわれない形式でした。最後に、子どもたちから次のような質問がありました。「山頭火が大切にしていたものは何ですか」。講師の先生は、「山頭火が大切にしていたものは、おそらく友達。自分を支えてくれる友達と、いっしょに俳句を作る友達を大事にしていたと思います。」と答えられました。帰校後、子どもたちは次のような礼状を書きました。「びっくりしたことは、はい句を1万個も作ったことです。13才からはい句を作り始めたのがすごい」、「いろんなことを教えてもらったので、家族にじまんをしたいです」。

プール掃除



6年生がプール掃除を一生懸命にやってくれたお陰でプールがとてもきれいになりました。児童の作文を紹介します。

「今日はプール掃除をしました。私たちは仕上げでした。端の方はほぼきれいだったので、前のクラスががんばってくれたんだな、と思いました。まず、各自持参したスポンジで壁をこすりました。少しの汚れもこすっていくとぴかぴかになりうれしかったです。次に、棒ずりですべをこすりました。こけのかすみみたいな物が残っていて落とすのに苦労しました。でも、きちんと磨くと落ちていき、感動しました。中略。来年の6年生も、楽しく笑顔で掃除してほしいと思います。」

8月の行事予定

日	曜	行 事 等
19	日	登校日 PTA奉仕作業8:00～9:40

9月の行事予定

3	月	始業式 給食開始(下校13:40)	21	金	4年生社会見学
6	木	給食集金日	22	土	秋分の日
10	月	委員会活動	24	月	クラブ活動
11	火	にこにこタイム 2年学年PTA活動(5・6校時)	27	木	スクールカウンセラー来校
13	木	学年集金日 スクールカウンセラー来校	28	金	一日フリー参観日(2～5校時) 音読大会
17	月	敬老の日			

<お知らせ>

小郡地区 小・中学校共通指導事項決定

「笑顔であいさつをしよう」

小郡地区では、小・中学校の連携教育を推進していくために、小郡地区小・中学校連絡協議会を年2回開催しています。先日、第1回目の協議会を開催いたしました。その中で、小郡地区小・中学校統一事項を「笑顔であいさつをしよう」に決定しました。あいさつは、時代や年代を超えて重要なものである、という共通認識のもと、小・中学校の時期にあいさつのしっかりできる人間を育成したいという願いで統一事項を決定いたしました。

笑顔であいさつのできる人間を小郡地区小・中学校をあげて取り組みたいと思いますので、ご理解ご協力をよろしくお願い申し上げます。

「夢をはぐくむ家庭の元気」(概要版)の配布及び活用等について

山口県教育委員会は、子どもたちの「知・徳・体」の調和のとれた「生きる力」を育むために、山口県PTA連合会等の協力を得て、一昨年度、保護者向けリーフレット「夢をはぐくむ家庭の元気」を作成し、小・中学校全保護者に配布しました。

今年度は、概要版のみ印刷したので下記により配布いたします。

記

- 「夢をはぐくむ家庭の元気」(概要版)の配布
 - 7月に入って学校から保護者あてに配布します。概要の中に「わが家のやくそく」を記入する欄があります。「わが家のやくそく」について話し合っ取り組んでほしいと思います。
 - 裏面には、「わが家の家庭の日に家族でチェック」欄があります。「早寝早起きをし、朝食をとっていますか」等についてチェックをしてできている項目に○をつけてください。
- 「わが家のやくそく」の募集

家庭の元気応援キャンペーンの一環として、「わが家のやくそく」を募集します。案内チラシを7月に入ってから配布しますので、各自でご応募されてください。

 - 応募期間 9月3日(月)～9月24日(月)
 - 内容 「わが家のやくそく」を決め、夏休みに取り組んでみる。

↓
やくそくを決めた理由や実行して感じたこと、気づいたこと、変わったことなどを書く。

《求む！地域の教育力！！》

山口市教育支援ネットワーク「やまぐち路傍塾」では、学校教育、社会教育や生涯学習の場でご自分の知識・経験や技術を教えていただけるボランティア(個人及び団体)を募集しています。

お問い合わせは、山口市教育委員会 社会教育課にお願いいたします。

TEL 083(934)2866

FAX 083(934)2661

また、教育支援ネットワーク「やまぐち路傍塾」のホームページが開設されていますのでご参考にしてください。 [山口市ホームページ>やまぐち路傍塾](#)